

08 政経A O 英語 解答

川田拓矢先生 文責

【全訳】

2004年という年は、自然の破壊的な力と、たゆまざる人間の憐憫の力とを示すある出来事で幕を閉じた。インド洋を席捲した津波は、およそ30万人の死者を出し、さらに100万人以上の人びとが家屋を喪失した。近年の歴史のなかでも最悪の自然災害であったこの数日間におよぶ津波の際に、世界最大級の国際的救助活動が誕生し、そのことによって、国際社会が共通の目標に邁進するとき、地球規模の協力によってどれほどのことが達成され得るかが示された。

この津波は、はっきりと目で確認でき、予測不可能な、しかもきわめて不可避免的な悲劇であった。他の惨事はこれほど目に明らかではないが、予測も防御も容易である。メディアの目の届かないところで、一時間ごとに1200人以上の子供たちが死んでいる。これは月ごとに、つまり毎月3度の津波が、世界でもっとも弱い市民——子供を亡き者にする数に等しい。死の原因はさまざまであるが、その圧倒的多数はただ一つの要因に求められる。すなわち、貧困である。津波とちがって、貧困は避けられるものである。今日の科学技術や財政資源や重積された知識をもってすれば、世界は、非常に多くの人びとが苦しんでいるとてつもない苦難を克服することが可能なのである。それにもかかわらず、①国際社会（の一員）として、私たちは、津波の衝撃もそれに比較すれば大したものではないと思わせるほどの規模で貧困が生活を破壊するにまかせている。

21世紀の黎明に、世界各国政府は協力して、世界中の貧困被害者にすばらしい約束をした。国連に会して、彼らはミレニアム宣言に調印した。すなわち、「極貧という惨めで非人間的な状況から同胞の男女・子供を解放する」という厳粛なる約束である。この宣言は、普遍的な人権と社会正義への共同の献身に基づき、しかも時限を定めた明確な目標に裏打ちされた大胆な構想を提供した。この目標——②ミレニアム開発目標（MDGs）——には、極端な貧困を半減し、子供の死を刈り取り、世界中の子供たちに教育をほどこし、伝染病を減らし、種々

の成果を上げるための新たな地球規模の協調を創生することが含まれていた。その最終期限は 2015 年である。

人類の発展はMDGs だけでもたらされるものではないが、この目標は、新しい、より正しい、より貧困から遠い、より不安定から遠い世界秩序の創生への進捗を測るための重要な基準を与えている。

国際的な援助は貧困との戦いにおいてはもっとも強力な武器の一つである。今日、その武器は十分に使われていないし、目標をまちがえている。あまりにも援助が少なく、供与されるものの相当数が人類の発展と脆弱さに結びついている。国際援助のシステムを確立することは、各国政府に直面しているきわめて緊急の優先事項である。

国際援助は富める国にも貧しい国にも適合するように再検討される必要がある。多くの人びとは援助と慈善 —— 持てる国から持てない国へ向けられる一方的に寛大な行為 —— とを同一視している。その考えはまちがっている。援助というものは単なる贈り物ではなく、あくまでも「援助」として、さらに共同の安定と共同の繁栄に対する投資として考えられるべきである。貧しい人びとや貧しい国ぐにが自らを貧困たらしめている健康や教育や経済資源の障壁を克服できるようにしてやることによって、「援助」は地球統合のための利益を拡大できるし、また進歩における共同の繁栄を拡大できる。さらに援助は、国際社会の集団的な安全をいよいよ脅かしている大量の貧困と不平等をも低減することができる。

援助は人類の発展を支える上でかならずしもプラスの役割を果たしていない。それは、一つには援助を受け入れる側の怠慢のせいであり、一つには提供者である諸国が戦略上の考慮のいき過ぎで、開発事業を台無しにしたからである。しかし、過去の失敗はどうあれ、今や開発援助を再構築する新たなチャンスが到来している。歴史上初めて、「人類の発展こそ援助の第一の目的であるべきだ」という国際的合意がなされた。その合意は、メキシコのモンレーにおける開発融資に関する国際会議に出席した党首たちが、貧困低減のための新しい「国際協調」からなる構築物を援助することに合意した 2002 年 3 月に強化された。

これまでのところ、現在の（援助の）進展状況はせいぜい、種々取り合わせたものからなっているにすぎない。（しかし）いままで達成してきたものを控えめ

に言うのはまちがっているだろう。2000年にミレニアム宣言が調印されたとき、国際援助の予算は国民総所得に対する割合としては史上最低であった。世界でももっとも貧困なサハラ砂漠以南のアフリカ諸国への援助は、援助開始期よりも1990年代末のほうが低かったのである。援助量におけるこれらの問題に加えて、援助効果に実りがなく、援助を受け入れる政府に莫大な処理費用を課すことなど、援助の質における深刻な諸問題に焦点が当てられていなかった。今日、一部の供与国が直面しているきびしい財政負債や公共負債の問題があるにもかかわらず、援助予算は増えており、援助の質の改善を睨んで徹底した会談が進行中である。

援助の増大はとりわけ顕著なものとなっている。政府開発援助（ODA）は、2002年から2004年にかけて120億ドル増えた。世界最大の援助国であるアメリカ合衆国は、1960年代からこのかた、その国家援助計画において最高の増額を公表してきた。その額は開発援助の増額のうち、80億ドルに当たる。とはいえ、国民総生産の割り当てとしての援助の観点から測ると、その増額は明らかに最低レベルだし、その増額にはアフガニスタンやイラクに対する多額の援助移転が含まれている。一方で、EU諸国もまた開発援助の一段進んだ増額に目標を据えている。

※ ODA受容国から変身して、岸内閣による供与国になって50年、節目となるタイムリーな出題である。今年度は、その場で思索することが困難な、前もっての知識を必要とするやっかいな問題となった。問題2と問題3の(1)を完答し、そのほかは部分点をかせぐという方策しか立たなかったろう。やはり、例年どおり合格点は30~40点というところだろうか。

【解答】

問題 1 (10×3)

(1) 著者が最も強く同意しているのは下記の三つの陳述のうちどれか。

【答】 C

- A 津波のような自然災害はまったく予測しがたいので、私たちは深刻な貧困をほとんど防ぐことはできない。
- B 国際援助のシステムを確立することは、富める国ぐにが貧しい国ぐにに与える慈善を増やすことよりも重要である。
- C 2015年の期限までにMDGsを達成するためにこれまでなされた試みは、決して楽観をもたらすものではない。

※ ぜんたいの論調として、これまでの援助の方策に関して反省点がしきりに述べられている。また、「援助を慈善と混同してはならない、援助システムの確立は喫緊の重要事項だ」と言っているのもあって、援助のほうが慈善よりも重要だとは言っていない。比較のダミーにはくれぐれも注意すること。

(2) 与えられたスペースに、この著者が自分の立場を支持するために用いている論点を、自分の言葉で説明せよ。

Progress and prosperity in our own country are built upon the unification of the world on the basis of humanitarian deeds that the rich aid the poor.

※ 主張点は第 6 段落に集中してまとまっている。自国の進歩・繁栄は貧者を富
者が援助する人道的な行為に基づいた世界の統合の上に成り立っている、と

いう論点である。この下線部を英語にしてみた。

(3) この著者の意見に賛成か反対か？ 与えられたスペースに、その理由を書け。

I disagree with his opinion, for, unless recipient countries have their will to make serious efforts to prosper on their own, any humanitarian aids will fall on donor countries' people.

※ 援助受け入れ国に真に努力して興隆する意志がないかぎり、どんな人道的援助も供与国の国民の負担になるから。川田はこんな文を作ってみたが、賛成反対十人十色の解答が出る許容幅の大きい問題である。人称と時制に気をつけて平凡な意見を書けば、多少の部分点があるかもしれない。なお問題4には一転して賛成意見を書いておいた。どちらもディベートできるようにすること。

問題2 (15点)

津波も貧困も世界でもっとも弱い市民である子供の命を多量に奪う。津波は予測不可能で、避けることができないのに対し、貧困は予測することも避けることもできるにもかかわらず、津波以上の死者を出す。

(94字)

※ 本文をなぞる問題で、一種の英文解釈。得点源。相違点ははっきりとしたものだけを挙げる。「目にはっきり見える」「それほど目立たない」は字数の関係で書く余裕がない。なお、下線部分まで読めば解ける問題であることは、日ごろの授業どおり。

問題 3 (15×2 点)

(1) MDGs によって様々な成果を上げるための新しい地球規模の協調を生み出すことで、貧困や死や無知や不安のない、これまでよりも新しく、より正しい世界秩序の創生への進捗を測るための重要な基準を与えること。
(98 字)

【別】 貧しい人びとや貧しい国ぐにが彼らを貧困たらしめている健康や教育や経済資源の障壁を克服できるようにしてやることによって、地球統合のための利益を拡大し、また進歩における共同の繁栄を拡大すること。
(94 字)

※ ②の下線前後を要約する力を試している。「理念」ときたら、具体を抽象して結論を出している部分に着目する。上に 2 例挙げたが、多分どちらを書いても正解となるだろう。

(2) 上記サハラ以南の地域をはじめとする極貧の諸国に、自力の殖産興業を促す形で、利子をとらずに、あるいは無償で厚生資金の援助をする。医学系の研修員および専門家を送り込み、地域の病院に機材や薬も無償で援助して、公共医療サービスを行なう。安全な飲料水を提供したり、防虫駆除をするなどして地域保健作業を徹底する。ボランティアおよび専門家が適宜あるいは緊急に目的地に移動できるように、国際法を詳細に整備する。
(197 字)

※ 自分の考えなので、本文を引用できない。ひたすら自力で書く。われながら幼い答案になったが、諸君のそれも似たり寄ったりだったのではなかろうか。0 点もありうる。

問題 4 (25 点)

国民一人当たりのODAは世界平均であるが、軍事費に対するODAの割合が高いせいで、日本はアメリカを抜いて長くODA供出額世界一位を維持している。行政改革の中でその額は漸減しているが、援助隊などを派遣して国際問題の質的な解決に励んでいる。その努力に対して世界から寄せられる期待は少なくない。それに継続的に応えていくことで国際社会における信頼を培い、存在感を高めなければならない。資源や食料を海外に依存する日本にとって、国民の生活を守り自国に好ましい国際環境を構築し、国民の利益の増進に資することは肝要である。平和国家を打ち出し、貿易を重視する資源小国だからこそ、軍事に絡まない国際支援が可能なのである。

(299 字)

※ 図表から読み取れるものは、軍事費に対するODAの割合が日本は5分の1で世界でも少ないほうだが、北欧諸国には敵わないということ。またODA供出金も世界では平均レベルで、しかも漸減しており、むしろ、拠出額も上げ幅も増大している北欧諸国には遠く及ばないということ。例年どおり、細かい数値は気にせず、この概念が利用できるなら利用してやろうぐらいの気持ちで書く。まず、大して利用できないのが通例である。ちなみに、多少の自分なりの知識を付け加えておくことも忘れないこと。効果的である。